

# 養育里親

～もうひとつの家族～

14

坂口 伊都

## ちょうど1年

我が家が里親委託を受け、ちょうど1年になります。この対人援助学マガジンでは、里子と生活を始めた頃の気持ち、半年が経ち、子どもと上手くいかないと感じた頃の気持ち等を後から思い出すのではなく、ダイレクトに書いてきました。そして、1年を迎えた今、新たな感覚を味わっています。家族を一人迎えることで、いろいろなところに影響が出ました。もし、この子と暮らしていなかったらこの問題はどうなっていたのだろうと感じますが、里親を受ける、受けないに関わらず、眠っていた問題はいつか浮上しますし、日常生活の中に様々なトラブルはつきもので、それを避けようとしてできるものでもなし、人生なんて上手くいかなくて当た

り前。そう考えると、少し楽しめるようになってきます。

里子が我が家に来てから、一番変化した人は誰かと考えると、意外なのですが高校生の息子になります。息子は、里親の話をして、「ふーん」と言うだけで暖簾に腕押し、マイペースで何を考えているのか全くわかりません。もともと、自分からあまり話をする方ではなかったのも、何を考えているのかわからないのは今に始まったことではありませんが、自分の世界を守りながら、里親のことは横目で見ていたような印象です。

その息子も、この子と出会った頃は、一緒に出かけたり、この子とお風呂に入ったりして来ていました。里親会のデイキャンプにもついて来てくれ、小さな子どもたちと一緒に虫取りをして、里親の皆さんにいい子やと褒められて

いました。委託から数か月経った頃から、家族との接触を嫌がるようになっていきました。高校1年生ですから、思春期の表れとして当たり前のことだと感じていましたが、改めてこの生活の変化を息子はどう感じているのでしょうか。

私が3月に手術をして1週間ほど入院した時も、全く何を考えているのかわかりませんでした。入院中の土曜日にこの子を見る人がいないので、病院まで連れてきてくれるように息子に頼み、それをしてくれましたが、息子からは「大丈夫？」の一言もなく、さっさと帰っていきました。後日、息子と言い合いになった時、「どうせ母ちゃんなんて、死んだっていいと思っているのでしょ」と言うと、「そんなこと言ってないだろ」と返ってきました。はい、大人気ないです私。母も身体が弱って寂しくなるのです。少しは息子に優しくしてもらいたいと夢見てしまう生き物なのです。母親って、辛い役回りですね。

夫からは、私と息子は似た者同士、息子は母親を敬遠する時期はあると言われました。ここでも「忍耐」の文字が重くのしかかります。そして、息子を信じ続けること。

息子の変化は、養育里親をしても、しなくても同じだったかも知れません。でも、多かれ少なかれ、何かの影響を受けているのでしょうか。もしかしたら、里子と距離を取ることで息子なりに関係を保っているのかも知れません。あくまでも推測なので間違っているかも知れませんが、言葉にしない分、家族に見えにくく、息子なりに感じているところはあるのだろうと考えると、息子をもっと優しい眼差しで見られるようになれそうです。改めて、この1年を振り返ることで、思いもしなかった息子の心情を勝手に思い巡らすことができました。それでも、息子との意見したいのをこらえて、この先を案じ、葛藤し続けています。

養育里親だけでも、大きな事柄ですが、それ

以外にも今までのバランスが崩れた結果、浮上した課題に対応をしていかなければなりません。大きな変化がある時は体調にも異変が起きると言われますが、我が家も例外ではありませんでした。

養育里親をすることを周りから好き勝手している、自分勝手だとも言われました。不安を感じ、悩み、迷い、それでも勇気をだして一步を家族と踏み出したつもりでいるので、そんな風に映るのかと唾然としました。余裕もなく、ただやるしかないと頑張っていた時期だったので、社会はかなりの割合で里親について無理解で、どんな状態で私達夫婦がいるのか想像すらしてもらえない現実を知りました。傷口に塩を塗り込められる感覚です。養育里親のワークショップで話をさせていただいた時、会場から「とてもいい里親さんなのですが、何故かお盆の時にショートステイを頼まれる方があって、皆が集まって人手もあるのに何故だろうと思っていたのですが、お話を聞いてよくわかりました。周りに理解してもらうことは、私達が思っている以上に難しいのですね。支援者もそこを知っておくことが大切だと感じました」と話してくださいました。

変化に伴う軋轢を感じながら、1年が経ちました。これからも、いろいろなトラブルが起き続けるでしょうが、人生なんてそんなもんと思いつながりながら対応していこうと思います。まだまだ、この生活の変化を楽しむところまで辿りつけていませんが、気持ちが穏やかでいられる時間が増える日はきっとくると信じます。

## 家から外へ

1年が経つ中での変化としては、外からの連絡が増えたことがあげられます。学校や障害児サービス放課後等デイサービスでのこの子の行い

についてです。「こんな事を言ってお友達が・・・」や「手が出ました、足が出ました」という内容です。今までは、家の中でバトルがありました。それが外に出てきているイメージです。外との関係ができてきたからこそその行動なのかも知れません。

この子が我が家に来てから、何回となく学校にもデイサービスでも、「生活環境が全て変わった中で、今は嫌がらずに通えていることがこの子の頑張りだと思う。これから、いろいろな行動が出てくると思います。家では、言葉で伝えて、少し待つことをしている」と伝えていたので、先生も支援者も出来事を淡々と報告してくれ、この子自身にもゆっくり言葉で伝えてくれています。報告を受けて、「家でも話し合います」と伝え、里父が中心になって「何か言うことあるのと違う？」と尋ねながら話をしています。できるだけわかりやすく話しているつもりですが、学校で言われたことは学校でしなくなったが、次はデイサービスで同じようなことをし、また電話が入って話し合い後、デイサービスで落ち着いてきたかなと思うと、次は林間学校です。場所を変えて続く見事な時間差攻撃です。林間学校のお迎えに行き、帰ってくることを楽しみに迎えに行きましたが、先生から思ってもいなかった話を聞かされ、相手の方に平謝り。隣で笑うこの子に「ここは笑うところではない」と怒りながら、冷や汗をかいていました。相手の方が寛大な方で有難かったのですが、もっと怒っても不思議ではない出来事でした。

今まで、話し合ってきたつもりでの里親は、次から次へと続く行動にがっかりします。伝え方が悪かったのか、伝わっていないのか、そこはこの子がわかるように話し方に変えていく必要があるとわかります。

この子も以前は、話を早く終わらせようと違う話題を切り出したり、「次からはちゃんとする」とこの場を終わらせるための枕詞を出して

きていました。「ちゃんとするって、具体的に何をやるの」と私からの突っ込みが入り、「えっ？・・・」となるので、「ちゃんとするは要らない、次の時にお友達から嫌なことを言われたらどうする？」と続きます。「嫌なことを言われたら、そんなこと言わないでと言ってその子から離れてみる」等を一緒にイメージしています。どこまで理解し、覚えているかは定かではありませんが、いつかこの子なりのやり方を見つけられればと思います。

真剣な話をしている時、へらへら笑って聞いていることが多く、それも気分も害する行動でした。「真剣な話をしている時は、相手に失礼になるから笑わないの」と教え、何かを触ったり、違うことをしようとする行動も同じように伝えていくと、じっとしようとするように変わっていきました。そして、困った表情が出るようになりました。どうしようと思いつながら目が潤んできます。どんな顔をして人の話を聞いたらいいかもわからないのだと思います。この場を終わらせることだけを考えてきたのでしょうか。

この子にどう伝えたらいいのだろうと迷いながらもいつも話をしていますが、あまりにも、こんなことがありましたという連絡が続くので、「お父ちゃんとお母ちゃん、いつもあなたのこと言われて何してる？謝っているよね。その時、どんな気持ちだと思う？」と聞くと、「またかと思う」と答えました。これは、出てくる会話から拾った言葉だと思います。「違うよ。悲しい」と伝えると、この子がハッとしました。予想もしていなかった言葉なのでしょう。

少しきつい言い方ですが、暴力を続けるとそれは犯罪につながることで、それがひどくなれば一緒に暮らせなくなることも起きうるのだという話もしました。里親との関係は、この子との関係を培いながらも、同時に関係性が崩れていった時にいつまでも一緒にいられなくなる脆さも感じています。一緒に暮らし続けられるかど

うかを決定する機関は、児童相談所ですから、我が家が適切ではないと判断されれば委託解除になります。ここは、決定的に実子とは違う部分です。

ただそれだけではなく、「お父ちゃんもお母ちゃんもあなたが大人になるまで一緒に暮らしたいと思っているからね、だから誰かを叩いたり、蹴ったり、ひどい言い方をしないで欲しい。嫌なことがあったり、しんどかったりしたら言っているんだよ」とも伝えました。小学5年生のこの子と私は一緒にお風呂に入ることもできません、よしよしと抱っこするわけにもいきません、今の私にできることは言葉で伝え続けることだと思います。気をつけないと口やかましくなりますけど、「したるわではなくて、するよでいいよ」や「しょんべんたれって言わない。そんな言い方している子、他にいる?」「プル(犬の名前)はいらない、あっち行って言わない。そんな風に自分も言われたい?」等と誰よりも言っているからでしょうか、本屋で『かあちゃん取扱説明書』という本を見つけた時、爆笑していました。この原稿に『かあちゃん取扱説明書』の写真を見つけて、「何であるの?」と興味津々で聞いてきます。「あなたがこの本を見つけた時にいっぱい笑ったことをかいているんだよ」と伝えると、それから何回もこの原稿を確認に来ています。

この本は、小学4年生の男の子が母に小言を言われ、母の悪口を作文に書いたつもりが先生から花丸をもらう場面から始まります。そこに家族にも読んでもらい感想を書いてもらうように言われ、父にこっそり見せます。すると、父が母の機嫌を取るにはほめるのが一番と話し、それをきっかけに「かあちゃん取扱説明書」を作るために母を観察するというお話です。自分は起こされているから、母が何時に起きているかもわからない。寝室の目覚まし時計を見て、6時だとわかる。母の職場のスーパーに行っ

てみる。そこで、自分の知らない母を知ります。

我が家でも、私をほめてくれればかなり機嫌が良くなると思うのですが、夫も息子2人も全くほめてくれません。特に、里子は人を貶す言葉ばかり覚えているようなので、ほめる言葉を覚えて欲しいと思います。覚えても、私には言ってくれないような気がしますけど。



## 体験すること

この夏休みにこの子、娘、夫、犬2匹と一緒にキャンプに行ってきました。久しぶりにテントを張って、夫とこの子はテントで寝て、娘と私は犬はエアコン、ベッド、トイレ付きのコテージに泊まりました。

この時はテントを張るのも手伝い、ペグ打ちもさせてもらい、だんだんと完成するテントに夢中。出来たテントで遊んで、汗だくになっていました。エアコンもない、鍵もかからないテントで寝る体験は初めてのようで、「寝れるかな」と心配しつつも父と一晩過ごすことができました。キャンプは、テント張りも火おこしも、

食事の用意も全て遊びのようなものです。近くの川に行ってエビを捕まえたり、蟬の多さに驚いたりしていました。

夕食の火おこし、歩いていく風呂場、何をするにも里父の後を追っています。夕食時は、辺りも暗く、ランタンの灯りを頼りに作りますから、肉が焼けているかどうかはわかりません。灯りを近づけると、今度は虫が多く集まってきます。虫嫌いな娘は、嫌だとギャーギャー叫び、暗闇の中で何を食べているのかよくわからない不自由さがありますが、それも体験です。

やりたがっていた花火もし、この子が花火をしている姿を見ていると、「母ちゃんも一緒にやろう」と誘ってきます。一人ではつまらないのだと思うのと、珍しく誘われたなという思いが起きました。後、「見て」も増えました。今まで、あまりそんな言葉が出てこなかったのですが、そんなことを言わない子なのかなと感じていましたが、改めて言うようになるのだと知りました。花火を手にとってやり始めると、「こっちもいいよ」と別の花火を持ってきます。「きれいだねえ」と言いながら、この子と笑いあえます。そんな時間がもっと増えてくれるといいんですけど。



私の身体にちょこっと触ってくる回数も増えました。甘え方を知らないのか、求めてないの

かわかりませんが、大人を頼むということが少なく、何か伝えに来てても、なかなか伝わらないと「もういい」とすぐに諦めてしまうところはそのままですが、少しずつ変化は出始めました。やはり変化が出始めるまで1年かかりました。それも、出たり、引っ込んだりの繰り返しです。

相変わらず私とは、争いのようになることが多く、私の言うことは聞かないという悪循環になる事があります。例えば、お茶を取ってきて頼むと、里父の時は何も言わずにそれをしますが、里母がすると聞こえないふりをしたり、「えー」や「後でね」と言ったりします。ことごとくこれが続くので、大人気ない私はイライラします。宿題も見せてと言うと「パパに見てもらおう」と言うので、「それは、母ちゃんの言うことは聞かないということだね」と翻訳します。そうすると、「あっ」となり「違う」と言ったりしています。具体的に自分が今言っていることがどういう意味になるのかを伝えていく作業がいるのだろうと思っていますが、毎回この繰り返しだと疲れます。言っていく頻度も悩みどころです。一線を通そうと思うと、ずっと言い続けなければなりません。それは、関係を悪化させることになるかと感じますし、片方で伝え続ける必要性も感じ、板挟み状態で悩みます。伝え方は、本当に難しいです。

この前も犬が嫌がっているのに構いに行くので、「もう止めてあげて」と言っても止みません。その内、犬も苛立ってくるのが伝わってくるので「もう、止めなさいと言っているでしょう!!」となります。それまでのイライラも手伝って、怒っていますという状態になりますが、この子には何を叱られているかわからないようでした。

「何で怒っているかわかる？」と聞くと、「洗濯物を片付けなかったから」と言います。いいえ、そこではありませんと説明します。誰かを殴った、蹴った、泣かせたという状況ではなかったので、何で怒られるか、わかりにくかったよう

です。私との仲直りの握手もしたがりません。私は、「自分が悪いって思っていないでしょう。わからないと思っている、わかるんだよ」と魔女みたいなことを言いながら、先は長いなど思います。

次の日から、チロッチロツと私を見ては、いろいろ試してきます。その行動が、頭が痛くなる方法を選んでくるので、少しお地蔵さんのように静かにしておこう作戦をしています。イライラさせられる行動に反応しない。聞こえない、聞こえないと呪文のように自分に言い聞かせます。まずは、平和協定を結んでいくのが先です。落ち着かないと、何を伝えても伝わらないでしょうし、この子が困った時に頼ってみようと思えなくなりますから。

人はいつから叱られるようになるのでしょうか。赤ちゃんの時は、泣いてもぐずっても叱られません。笑えば周りも笑顔になり、座った、立った、歩いたと何をしても褒められます。「何でそんなこともできないの」「これをしたらダメ」と言われるようになっていくのは、自分でできるが増える頃でしょうか。子どもって、身体が小さいとそれだけで幼く見えますが、身体の発育がいい子だと中身の成長よりも外身の大きさに判断してしまうところがあります。変な話ですが、身体の成長が遅い方がかわいがりやすいと感じています。もっとゆっくり大きくなればいいのに、5年生ですが6年生よりも身体が大きいですし、我が家に来てからの身長伸びも大きく、身体を触れ合やすような遊びになりません。ちょっとくすぐって暴れると、手足が長く、力も強いので一瞬で終わります。物理的に身体が大きくなり、大人に近くなればなるほど、かわいがりにくくなるように感じます。かわいがられた経験が根付いていると、その子ども自身からかわいらしさがにじみ出てきますが、暴力を受けた経験があり、それを慰めてもらえない環境下にあった子は、可愛げがないように見

えます。かわいがられやすい時代にしっかりとかわいがられることの大切さを感じます。

この子もゆっくりですが、甘えようとし始めています。大きくなっているこの子に対して、どのような方法でかわいがればいいのかを悩みつつ、この子をよく見て、自分のイライラも少し減らしていけるようになればと思います。今のところ、私は家を出て人と会い、仕事をし、話をし、刺激を受けて、自分を見つめ直しながら帰宅することが気分転換になっています。そろそろ私の気持ちの仕切り直しの時期のようです。自分の視点を意識してずらしています。例えば、夏休みの宿題は夫に任せ、私は言わない役回りをする。夫はこの子に宿題をやらせることで疲れるので、宿題の中身のチェックは娘が担当する。そうすることで、家族の生活が回りやすくなりました。

だんだんと、家族の役割分担のようなものが見え始めていますが、まだまだ過渡期です。またすぐに負のスパイラルに足を突っ込んでしまう日々が来るのでしょうか。まずは、その陥っている状況に私自身が気づけるかどうかです。そのために外に出て、いろいろな人と出会っていかうと思います。養育里親だけに専念していくことは、私には難しいと感じている今日この頃です。